

No. 7 2

新春号

# 電機連合 西四国地協ニュース

発行所  
全日本電機・電子・情報関連産業  
労働組合連合会  
西四国地方協議会  
発行人 越智 俊盛  
編集人 上甲 章史  
〒790-0066 愛媛県松山市宮田町132  
愛媛県勤労会館内

## 新年、明けましておめでとうございます。

日頃より西四国地協へのご支援、ご協力に感謝申し上げます。  
令和初めのお正月となり、構成組織の組合員の皆さまにおかれましては、ご家族とお揃いで穏やかな新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。



### 昨年を振り返り

昨年も全国各地で甚大な自然災害が発生しました。今回の災害で被災された方々に対し、心よりお見舞いを申し上げます。改めて自然災害の恐ろしさと、いつ何時も備えることの重要性を痛感しました。

一方、昨年はラグビーワールドカップが日本で開催され、日本代表チームが愚直にボールを繋ぎチーム一丸 (ONE TEAM) となってトライを決めるシーンに、日本中が感動に包まれた年でもありました。

### 世界経済減速や海外リスクに対する国内の経済対策が重要

世界経済は成長の減速が続いています。先の見通しについて日銀は、成長ペースの持ち直し時期が遅れるものの、その後は、各国のマクロ経済政策の効果発言や、IT関連のグローバルな調整の進捗に伴う製造業部門の持ち直しを背景に、穏やかに成長率を高めていくと想定しています。

一方、国内経済の日銀見解は「当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果も相まって、穏やかな回復が続くと期待される。」となっています。しかしながら脆弱な日本経済においては、消費税率引き上げ後の消費者マインドの動向、韓国との通商問題、英国のEU離脱に伴う不透明な欧州経済、また直近では、米国とイランの武力紛争への懸念、朝鮮半島の緊張等により大きく影響される事も否めない状況です。政治での外交政策や経済政策が重要な年となります。

### 電機連合2020年闘争の意義

1月に入り2020生活闘争が始まります。電機連合は、今次闘争の意義を「生活不安、雇用不安、将来不安の払拭」と「すべての労働者がいきいきと働ける環境」を目指し継続した「人への投資」に取り組むと位置付けています。また本年4月から同一労働同一賃金に関する法が施行されます。地協内でも、確認された電機連合方針に基づき、継続した賃金改善要求や「法に関する考え方と取組み」「第7次賃金政策」を基本に、法令順守はもとより同一価値労働同一賃金の実現に資する取組みを徹底します。

結びに、本年は東京オリンピック・パラリンピックが日本で開催されます。1964年の東京大会は、戦後復興のシンボルとして国の威信をかけた大会でもありました。50年が経過し敗戦国だった日本は、GDPは世界第3位の先進国となり、東京・札幌・長野・そして東京とアジアで唯一、4回のオリンピックを開催する国になりました。

昨年のラグビーワールドカップに続き、「努力は裏切らない」「決して諦めない」強い信念を抱きながら、日本中が感動の渦に巻き込まれるシーンを期待すると共に、穏やかな一年となる事をご祈念申し上げます。

電機連合西四国地方協議会 議長 越智 俊盛

# 新年の幕開けをご家族の皆さまともども 健やかに迎えになられたこととお慶び申し上げます。

## 今年の干支「庚子」

新年の幕開けをご家族の皆さまともども健やかに迎えになられたこととお慶び申し上げます。本年もよろしくお願いたします。今年の干支は「庚子(かのえ・ね)」です。「庚」は、草木の成長が終わった状態を表し、「子」は、芽が出始めようとしている状態を表します。また、『干支の活学』(著者:安岡正篤氏)では「子」には「増える」、「庚」には「改める、深まる」という意味があるとのこと。その2つが重なる2020年の庚子の年は、これまでを振り返りつつ、今後進むべき道を長期的視点で計画する年になるそうです。10年後に振り返ったとき、2020年がその出発点になっていた、ということなのだろうと思います。



## 信頼され頼りにされる電機連合を目指して

日本の最大課題は、持続可能な社会の再構築だと言っても過言ではありません。現在、我が国が抱える社会的課題は、「社会保障の給付と負担」「自然災害や環境問題」「エネルギー政策」「安全保障」「生産性向上と生産性三原則」「第4次産業革命」「人生100年時代への対応」など数多くあります。これらに対して、将来を見据え、現実的視点に立って進むべき方向を見出さなければなりません。そして労働組合には、その解決に向けた取り組みに参画する使命があり、電機連合としても、社会的責任と役割を果たして行きたいと思えます。

とりわけ、電機産業の持続的発展を促し、雇用を守り、生活を安定・向上させるためには、産業・社会政策に関する政策立案力や政策実現力の向上が必要です。そのためには電機連合議員団の拡大と連携強化、職場組合員の共感・共鳴を生む取り組みを行うことが大事です。また、非正規雇用問題を含め、電機産業で働く誰もがいきいきと働ける環境をつくるためにも一層の取り組み強化が必要です。さらに、電機連合のスケールメリットを最大限に活用した共済制度を全ての組合員に広めることや、連合や金属労協との連携を密にした国際労働運動の強化も必要です。

他にも、組織力の強化と組織拡大、組織運営の効率化の取り組みもさらに進めなくてはなりません。とりわけ個々人の価値観が多様化している現代社会において、お互いの違いを認め合いながらも、一つにまとまっていく求心力と、決めたことはやりきる徹底力を高めたいと思えます。電機連合が真の意味で構成組織から信頼され頼りにされるためには、何よりも身近な存在にならなければなりません。専門性の向上と部門間の連携による対応力の強化を一層進めると共に、組合員サービスの向上の視点からも電機ホールディングスと電機連合運動の有機的連携に向けた改革を着実に進める必要があります。また、第4次産業革命の進行による産業の垣根が低くなることを視野に入れた機能強化にも主体性を持って取り組まねばなりません。

## 信頼関係とチームワークを大切に

時代の大きな転換期であるだけに、将来のありたい姿をしっかりと持ちたいと思えます。そして、これまでの歴史の中で築き上げてきた労使の信頼関係を大切にし、志を高く持って、チームワークを大切に誠心誠意取り組んで参ります。今年が皆さまにとって実り多い年となりますことをご祈念申し上げ、新春のあいさつとさせていただきます。

電機連合中央執行委員長 野中 孝泰



## 地協活動報告

### 電機連合の重要な取り組みについて理解を深める

2019年11月8日から9日にかけて、香川県で中国四国ブロックユニオンセミナーが開催され、西四国地協からは加盟組合の役員2名が参加しました。

セミナーでは、電機連合の重要な取り組みでもある共済活動や政策制度の取り組みなどについて学びました。

また、7月の参議院選挙の結果を踏まえ職場実態の共有や各組織の取り組み、今後日常的に取り組むべき点など、グループワークを通じた意見交換により、次につなげる活動を論議しました。

翌日は、米中貿易摩擦による日本や電機産業への影響、電機連合の組合員意識実態調査に基づく結果の報告を受け、現状認識と今後の取り組みの方向性などについて知識を深めました。



### 2020年闘争にむけた準備開始

2019年12月16日(月)に、2020年闘争の準備に向けて加盟組合の情報交換会を開催しました。

電機連合本部の小原中央執行委員から、闘争方針の論議状況や取り巻く環境、上部関連組織の論議状況について報告を受けました。その後、組織間の情報交換を行い、活動状況や組織での課題について共有しました。

会議後には、前参議院議員の石上としおさんより、これまでの各種取り組みに対する感謝と、労働組合が政治に関わることの重要性についてお話があり、参加者も仕事や生活にも関わる政治の取り組みが重要であることを再認識しました。



# 2020 お年玉クイズ



## 目指せ金メダル!!

今年は東京オリンピックが開催されますね。1964年の日本開催から56年経過しますが、色々な競技が増えたり入れ変わったりして、楽しめる競技も多くなりました。

それでは、**2020年に開催予定の競技で、1964年開催時にはなかった競技の写真**を探してみてね！（ヒント：正解♪）

正解者の中から  
抽選で30名の方に  
図書カード(2,000円)を  
プレゼント



**A**  **柔道**



 最高でも金、最低でも金

**B**  **バレーボール**



 排球!! TO THE TOP

**C**  **卓球**



 令和にチョコレートを響かせます!!

**D**  **カヌー**



 激流には負けまへんで。オラオラ俺様が通るで~!!

**E**  **サッカー**



 いつか決めるぜイナズマシュート

**F**  **ウエイトリフティング**



 今年は載れたどー！

**G**  **バスケットボール**



 組合員の皆さんのハートにダンクシューーート!!

**H**  **体操(つり輪)**




 打倒白井！ひねりのない王子

✂-----切-----り-----取-----り-----線

© Tokyo 2020

### 応募用紙

こたえ 写真の記号→ 

締め切り 3月6日までに所属組合へ提出をお願いします

組合名	
職場名	
名前	